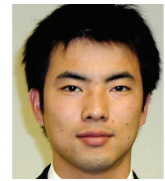


ワークショップ「流域圏プランニングの理論と実際」 開催報告

技術普及部 副参事 山口 将文



1. ワークショップ開催趣旨

財団法人リバーフロント整備センターでは、平成15年度よりアジアを中心とした水辺・流域再生等に関する世界の先進的な経験、知識に関する情報交換及び河川関係者の人的なネットワーク構築に向けた活動を行っている。この活動の一環として平成17年6月に「流域圏プランニングの理論と実際」と題したワークショップ（以下、WSという。）を開催した。

WSでは、ハーバード大学デザイン学部大学院教授のC.スタイニッツ氏、同大講師兼ESRIエグゼクティブディレクターであるM.フラックスマン氏及び慶



写真-1 WSの様子

應義塾大学教授兼鶴見川流域ネットワーク代表理事の岸由二氏にご講演いただいた。また、講演後の総合討論では、日本大学教授の吉川勝秀氏をコーディネーターにお招きし、河川と流域の視点から都市再生、流域圏プランニングの実際の方法論に関して議論いただいた。

2. ラ・パズの都市再生計画（ハーバード大学）

ハーバード大学の両氏からはメキシコのラ・パズの都市再生計画を例に手法の紹介をいただいた。その手法は、GISを用いた複合的なモデルによる自然環境と経済効果のシミュレーション（図-1）及び住民による地域の景観、将来に残すべき景観に関するアンケート調査を実施するもので、シミュレーション及びアンケート結果の複合的な要素から計画案の採択を行うものである。



写真-2 住民へのアンケート調査

この手法の最たる特徴は、プランナーは最良の計画を示すのではなく、複数の現実的な整備案とそれぞれの将来性を示すにとどまることにある。最終的に採択する整備計画案は市行政の判断にゆだねることにある。

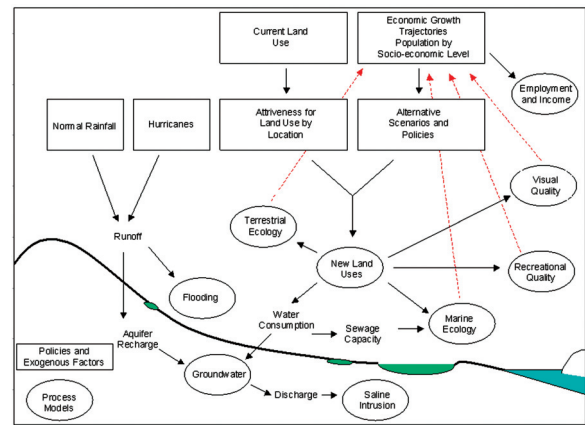


図-1 シミュレーションモデル概要

3. 鶴見川の流域活動の紹介（鶴見川流域ネットワーク）

岸教授からは、鶴見川の流域概要、『鶴見川流域ネットワーク』の組織と活動内容の概要、鶴見川流域の治水の歴史及び『水マスタープラン』作成に至る経緯をご講演いただいた。



写真-3 鶴見川の住民運動

4. 総合討論

総合討論においては、自然と経済及び住民の水辺の利活用の2つの視点から見た流域再生・都市再開発計画を中心に熱心な議論が展開された。



写真-4 総合討論の様子

5. 終わりに

WSでは、都市及び流域の計画に関して経済活動及び住民の利活用の視点からの事例紹介や議論が行われた。WSの詳細な議事録は、当センターHPに掲載を予定しておりそちらをご覧ください。

（当センター HP:<http://www.rfc.or.jp/>）